



素粒子物理学実験の現場から

第38回

大阪大学 花垣 和則

若手研究者の合宿

研究者の活動内容としては、研究だけでなく教育も非常に重要です。大学に所属する身であれば、研究室に所属する学生に対する教育活動(主には研究の指導)と、より広範な学生に対する教育(授業)は、当然重要な職務です。また、近年、研究者が力を入れているのは、アウトリーチと呼ばれる広報活動です。一般向け講演会などは、昔に比べてそれこそ桁違いに多くなっているのではないのでしょうか。

これらに比べて馴染みがないと思われる教育・普及活動がスクールです。複数の人間が集まって議論をするという点では、学会や国際会議などと似ていますが、スクールはその名の通り、研究者を養成するための教育プログラムです。講師役のスタッフが講義を行い、若手研究者(主には大学院生+ポストドク)たちが自分の研究内容を発表・議論するというのが定番メニューです。通常どこかに泊まり込みで朝から晩まで行うので、その様子はさながら合宿です。



そのスクールの一つとして、私を含む数人の仲間が一昨年「高エネルギー物理春の学校」というのを始めました(写真は第1回の様子)。ずっと

びわ湖畔でやっているのですが、実は、この記事を書いている翌日から今年のスクールが始まります。参加者数は例年60から70人。そのうち、運営スタッフと講師が10人程度を占めます。最初に立ち上げたときはかなり苦労しましたが、3回目ともなるとだいぶ手馴れてきました。過去2回は、学生たちの熱気で議論が非常に盛り上がりました。学生のそういうパワーを見られることを期待しつつ、今回のスクールのための最後の準備をしています。



著者紹介 花垣 和則(はながき かずのり)

大阪大学大学院理学研究科 准教授

CERNでLHC実験に参加